



# 食ビ通信 No.3

発行日：2021 年 4 月 1 日（木）

発行元：摂南大学農学部

食農ビジネス学科

## 1 小野雅之学科長からのメッセージ



食農ビジネス学科の皆さん、こんにちは。冬から春へと季節が変わり摂南大学農学部の校舎にも2学年の学生が集うようになりました。新入生の皆さんは、ご入学おめでとうございます。高校時代には、大学入試改革が紆余曲折したり、さらにコロナ禍のもとの受験勉強をしたりなど、大変な思いをしたことでしょう。そのなかでの食農ビジネス学科への入学を心から歓迎します。授業や学生生活についていろいろな不安や戸惑いがあることと思います。幸い皆さんには先輩もいますし、私たち教員もいますので、安心してください。

また、在学生の皆さんも、昨年度は後期の専門科目で対面授業を実施したとはいえ、登校する機会も少なく、勉学と学生生活の両面で苦労をしましたね。今年度からは専門の授業が中心になり、食農ビジネス学の本格的な学びが始まります。楽しみにしてください。

対面での授業が基本になり、皆さんの姿で活気づく大学本来の姿に戻ってきました。一人ひとりがワクワクできる学生生活を過ごせるように、いろいろチャレンジをしてください。その環境は整っていますよ。

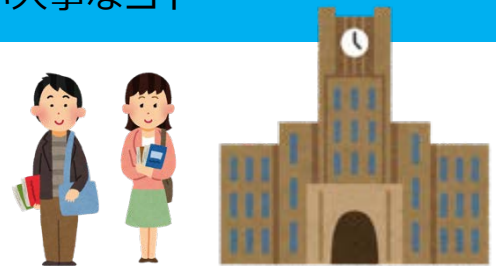
## 2 1 年次前期の学生生活～はずせない大事なコト～



### 大学生へのジャンプアップ

新入生の皆さん。入学おめでとうございます。いよいよ大学生活がスタートしますが、準備は出来ていますか？準備と言っても服や靴や下宿のことではありません。大学生になるという意識を持っているかということです。

大学生は、単に高校生の延長ではありません。大学では、自ら目標を設定し、そのために何をやらなければならないかを自分で考えて、見つけることが求められます。つまり、高校生から大学生へのジャンプアップのためには、「受け身からの脱却」あるいは「自発的な行動への転換」が必要です。



自分で考えて、自分で決めて、行動するということは、当たり前のように聞こえるかもしれませんが、自分で決めたことを実行するということは、意外と難しいのです。なぜなら、自分で決めたことは、やるもやらないも自分次第だからです。

要するに、大学生活が充実するかどうかは自分次第だという意識を持って、これからの4年間を過ごしてください。



（浦出俊和）



## 履修計画と学修

大学では高校とちがって自分で履修登録を行わないと受講することができません。

4年後に学士（農学）の学位を授与されるためには、「専門科目 98 単位」と「教養科目 26 単位」の「合計 124 単位以上」の取得と成績（A～D）を4～1点に換算して算出した GPA が「1.3 以上」であることが必要です。

また、毎年、進級要件として、学年ごとに指定されている科目（詳細は履修申請要領を参照）と、1 年次には「30 単位」、2 年次には「70 単位」、3 年次には「100 単位」以上の修得が必要です。1 年間に履修申請できる単位数は基本的に「48 単位以内」です。履修申請期間中に必ずポータルサイトにログインし、Web で履修登録を行って

ください。履修申請期間は 4/12

（月）9：00 から 4/14（水）

23：59 までです。



（中塚華奈）



## 学生生活のスタート

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これからの新生活に対する不安を感じつつも胸を躍らせていることだろうと思いますが、ここで、大学と大学院を合わせて 10 年もの大学生活を経験した身として、少しばかりのアドバイスをさせていただきます。

まず、皆さんには、責任を自覚しながら大学生活を過ごしてもらいたい。高校生と大学生の最大の違いは、周囲が皆さんを子供扱いするか大人扱いするか、という点にあります。大学生活は自由で楽しい一方で、自己責任というものがつきます。思慮分別のある行動に心がけてください。そして、積極的に人とのつながりを持ち、一緒に大学生活を過ごす仲間を大切にしてもらいたい。何もかも独りで抱える必要はなく、謙虚に助けを求めたり、真摯に人を助けたりしてください。

最後に、失敗を恐れず色々なことに大胆に挑戦してもらいたい。失敗は人生の終わりでもなければ、恥ずかしいことでもなく、むしろ次につながるチャンスです。一生に一度しかない大学生活を悔いのないように過ごしてください。

皆さんが卒業できるように、ここにいてよかったと思える生活を送ることができるよう、わずかながらのお手伝いをするとともに、充実した生活が送れることを期待しています。



（戴容秦思）



## 先輩からひとこと

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。皆さんが入学した農学部は、2020 年に設立したばかりの新しい学部です。しかし、去年から流行している新型コロナウイルスの影響により農学部は順風満帆とは言えません。私たち含め、世の中の人々は初めてのことでだらけに戸惑い、不安や恐怖、絶望さえ感じました。

前期の授業では、ほぼすべてがオンライン授業となり、夢に見たあこがれのキャンパスライフを味わうことができませんでした。毎日毎日をオンライン授業や課題に捧げ、多忙なために友達と遊ぶことすらできませんでした。

新型コロナウイルスというものがなければ今頃、友達とあこがれの楽しいキャンパスライフを送っていたのにと、いつもふと考えてしまいます。しかし、このような状況下の中でも転機が訪れました。基礎ゼミという授業で他の生徒と交流する機会があり、少しの時間ではありましたが、色々な人と話し、楽しい時間を過ごすことができたのです。

基礎ゼミの担任の先生方がオンライン上だけでなく、対面した時でも生徒のことを心配してくれました。担任の先生方や友達の力を借りるということは、この状況下であるからこそこのありがたみを深く胸に刻むことができました。普段、何気もないことを今改めて深く考え直す機会がここにあります。「コロナのせいで」ではなく、「コロナだから今できること」を探し、今までにないものをみなさんが創り出してください。少しでも早くみなさんが楽しい大学生活を送れることを在校生一同、心より願っています。

（2 年、森阪ひなた）



## 先輩からひとこと

皆さま、こんにちは。この記事を読んでくれている方には、二回生に加え、新しく入学された新入生の方も居られると思います。そこで、私がこの記事で伝えたいことは、大学生活で学びを得るために大切なことは、「自ら行動を起こすこと」です。

大学では高校までの生活と比べ、殆どの生活スタイルを自ら決めることができます。そのため授業だけ出席し、すぐ帰宅する生活を送ることも可能です。しかし、そのような生活で得られる学びは、ほんの一部です。

そのため、新入生の皆さまには新しく様々なことにチャレンジしてもらい、深い学びを得てほしいと考えています。チャレンジするものは何でも良いです。部活やサークル、学校行事やバイト、勉強など何でも構いません。とにかく自ら行動を起こし、挑戦することによって意味があります。私が伝えたかったことはこれで以上です。

この記事を読んでくださった方の中に、少しでも行動してみようと感じてくださった方がいることを願っています。ここまで読んでくださり、ありがとうございました。



(2年、前田敦)

## 3 2020年度後期の授業を振り返る



### フードシステム論

農水産物の生産から流通、消費に至る流れとそれぞれの領域で生じている問題点をバランスよく講義することで、受講生が幅広く食に興味を湧く授業を目指し、受講生の反応は概ね良好であったと受けとめています。講義を振り返り、とくに以下の2点が印象に残りました。

第一に、「ファストフードに対抗して立ち上がったスローフード運動をあなたはどう評価するか」を聞いたところ、地域の食材や味、コミュニティがあってこそその食だと思えるからスローフード運動に全面的に賛成という意見がほぼ半数、残り半数はファストフードは便利で消費者が選んだ結果である、時代の流れなのでスローフード運動をあまり評価しないという見解で受講生の意見が割れました。

第二に、中国や韓国とは違う日本的な醤油や出汁、調理道具の箸、包丁などいわゆる和食文化の特徴に大半の受講生が興味を示したことです。

「難しいことをやさしく、深く、そして可能な限り面白く」をモットーにフードシステム論を改良し、次回に備えたいと思います。



(濱田英嗣)



### 食農共生論



授業でも話したように、「食農共生」は、市場経済や市場流通だけでは実現できないこと（そこから生じる課題）を、地域を舞台に関係者が主体的に克服しようとする取り組みです。したがって、農業や食料問題を対象とした市場経済や市場流通の特性を理解する必要があります。

そこで、授業の前半では他の科目との関連にも配慮しながら、こうした特性について話をしました。これを受けて後半部分では、農産物直売所、インショップ、食育（食農教育）、獣害対策やグリーンツーリズムなど、できるだけ具体的な実践事例を取り上げ、現場で奮闘しておられるゲストスピーカーもお呼びしました。

毎回提出を求めたリアクションペーパーでは、新たな気づきを大切にしながら、授業の内容を自らの関心、暮らしや身の回りのことに引き付けて記述している人が少なからずあり、うれしく思いました。

食農ビジネス学の学習は、まだ始まったばかり。小さな好奇心を大切にしながら授業や演習にのぞみましょう！面白くなるのはこれからですよ。(北川太一)





## ミクロ経済学



ミクロ経済学を受講した皆さんの多くは、この授業を難しいと感じたのではないのでしょうか？実は、他大学においても、初めてミクロ経済学を学んだ人の多くが難しいと感じています。では、なぜミクロ経済学を難しいと感じるのでしょうか？

ミクロ経済学は、現実の経済現象（社会）を説明するための基礎理論であり、極めてシンプルで常識的なことを述べているに過ぎません。しかし、数式やグラフと言った皆さんの多くが苦手（嫌い）な数学的要素が用いられます。このことがミクロ経済学を難しく感じさせているのではないかと思います。

そこで、授業では、数学的要素を減らし、しかも可能な限り難しい数学を用いないようにしましたが、まだ難しいという意見が聞かれたので、更なる授業の工夫の必要性を感じました。

ただ、非常に残念だったのは、質問してくれた人が非常に少なかったことです。これからは、分からないところは放置せずに、積極的に質問してくれることを願っています。



（浦出俊和）

のキャッチコピーを考えてみるという作業はどうでしたか？これは、このコロナ禍の中で、なかなか学生さん同士で交流する機会を作ることができないので、せめてポップ集を通してお互いを知るきっかけとなれば・・・と担当教員たちで考えた内容です。

最初は「えー?!」と戸惑いを見せていた皆さんも、結局は楽しそうにポップを作る姿が印象的でした。エクセルやワードは4年生になるまで、いえ、社会人になっても仕事や地域活動の中で使う場面が多いです。大学の間にしっかり身につけてくださいね！



（副島久美）



## 基礎統計学

今回、私は初めて基礎統計学という授業を担当しましたが、一学期間やってみて、この科目が受講している皆さんにとってストレスの大きなものであることを実感しました。加えて、コロナ対策で自由に座席移動できない、板書が使えないという制約もあり、特に数学が苦手な皆さんにとっては苦痛が大きかったのではないかと思います。私もできる限りの支援策を講じたつもりですが、反省点もいろいろあり、次年度に改善していきたいと思っています。授業でお話した通り、統計学に関する知識を持っていることは、卒業研究はもちろん、皆さんが社会に出てから遭遇する様々な場面で大きな強みになります。世の中の情報を正しく読み取ったり、データからビジネスに役立つ知識を引き出したり、職場の上司や同僚を説得したりする時に、皆さんの武器になります。

「私のことは嫌いでも、統計学は嫌いにならないでください！」



（谷口葉子）



## 食農ビジネス学演習Ⅰ

食農ビジネス学演習Ⅰが終わりました。皆さん、どうでしたか？この演習は主に統計などを用いながら、エクセル操作を学ぶ・慣れるということが主な目的でした。エクセル操作に慣れていない人は、慣れるまでに少し時間がかかりましたね。エクセルの操作は得意でも、統計を使ってちょっとした分析となると、自分が今エクセルで何をしているのかということをしかりと頭で理解しながら作業をすすめるとなるとなかなか難しかったかもしれません。

でも、多くの学生さんがわからなかったらすぐに手をあげて教員に質問したりして、とても積極的だったことが印象的でした。そして終盤にはワードの色々な機能を使うため、自分を紹介するポップをつくりました。自分



## 食と農の近現代史～現在を理解し、未来を考えるために、歴史を知る～

この授業では、江戸時代から現在までのわが国の食と農の歩みを、駆け足で振り返りました。「歴史は苦手だ」「歴史には興味が持てない」という感想もありましたが、同時に「知識が広がった」「もっと詳しく、深く知りたかった」「過去のできごとが現在につながっていることが分かった」という感想もありました。

歴史を学ぶ意味は、過去のできごとに対する知識を身につけることだけではありません。現在の姿を理解し、未来を考えるためには、歴史を知り、歴史から学ぶことが必要です。

これからの食と農を考えるためにも、この授業で学んだことを活かして下さい。



(小野雅之)

## 4 2020 年始動「まちなかり山プロジェクト」

～私たちと一緒に摂南だけの森を作りませんか～



このプロジェクトでは、主に荒廃した竹林・山林の開墾や修復を行っています。学生同士が主体となって意見を交換し、土地を有効活用する為に日々活動に励んでいます。

現在は、「そうぞう・はっしん倶楽部」「ちくりん倶楽部」「みつばち倶楽部」「さいばい倶楽部」「きのこ倶楽部」「やまのちゃ倶楽部」「くだもの倶楽部」「はーぶ倶楽部」「あろま倶楽部」「あったか倶楽部」「さんぴん倶楽部」「こんちゅう倶楽部」の12の倶楽部が存在します。

昨年から、伐採作業や果樹苗木の植えつけ、養蜂箱の作成、温室の設置、トレイカメラでの昆虫の撮影など他にも様々な、他では体験できない様な活動を行いつつあります。

これらの活動はまだまだ完璧なものとは言えません。しかし、この活動は摂大農の特徴ある取り組みになるでしょう。この記事を読み少しでも興味が湧いたあなた。是非、私達と一緒に摂南大学だけにしかない森を作ってみませんか？

(2年、富岡まりあ)

## 5 食ビ住人のよもやま話～教員編～



### 映画・言の葉の庭

2月末に信州に帰省した際に、2013年、新海誠監督のアニメーション作品であるこの映画を、雨が大好きな55歳の私が15歳の高校1年生の時を心に思い返らせながら5度目に観た。

雨の新宿御苑で出会って、雨の日の午前中だけ新宿御苑の東屋で共に過ごす2人、靴職

人を目指す高校1年生の男の子、タカオ（15歳）と、スーツ姿で朝からチョコレートをつまみながら缶ビールを飲んでいる謎の女性、ユキノ（27歳）。初めて出会った日に、ユキノはく雷神（なるかみ）の少し響（とよ）みて少し曇り雨も降らぬか君を留めむとタカオに詠う。後日、タカオはく雷神（なるかみ）の少し響（とよ）みて降らずとも我は留らぬ妹し留めばとユキノに返す。

ユキノは雨の日の公園で、歩く練習をしていた。もっと遠くまで歩けるように。タカオはいつかもっと歩けるようになったら彼女に会いに行こうと。エンディングはユキ（雪）になっていた。

ある意味、大学4年間も、人生も未知（道）への歩く練習かも知れない。それもくわし

がその道(the Way)である>  
と宣言された2000年前の方の道を、このいのちが尽きるまで歩いていくことも知れない。

みなさんに、是非お勧めしたい。



(成者政)



## 自己投資のすゝめ



コロナと共に大学生活がスタートした皆さん。4年間をどのように過ごそうか、悩んでいる人も多いのではないかと思います。

私のおススメの1つは自己投資です。いざという時に副収入が得られるようなスキルを身につけておくというものです。私の経験では、長い長い学生生活を送るなかで、英語のスキルがとても役に立ちました。映画資料や書籍の翻訳から、セミナー・視察での逐次通訳まで、いろいろやって大学院の授業料を払って

いました。英語は若いうちに身につけておくといスキルの一つです。英語の他にも、プログラミングや動画制作、デザインのスキルなどなど、収入源になりうるスキルの選択肢はいろいろあります。大学での学びを生かして、有機認証やGAPの審査員になるという選択肢もあります。特に、何か夢があって下積みが長くなりそうな人には何かのスキルの習得をおススメします。きっと挑戦する勇気が湧いてきますよ。



(谷口葉子)

## 6 食ビ住人のよもやま話～学生編～



### ボランティアの魅力

皆様はボランティアをされていますか？大学生活を送る上で、ボランティア活動をされる方も少なくないと思います。ボランティア活動は社会経験を得る上でとても魅力的な活動です。様々な種類のボランティア活動があり、景観美化のための清掃活動や、災害支援、こどもの学習のサポートなど活動の種類は多岐に渡ります。中には、農学部での学びに繋がる活動もあります。

私はとある団体で小学生に向けた自然体験活動のボランティアをしています。今後の活

動では農業体験もする予定です。ボランティア活動を通じて様々な経験を得て、新たな学びに繋げていこうと思っています。

活動で得られるものは沢山あります。私はこどもと活動することで自身に足りないことを知る機会を得ました。

自身を見つめ直す機会を作るために活動に参加するのもおすすめです。もし興味があれば、近くで実施されているボランティア活動を調べてみるのはいかがでしょうか？

(2年、村井豊明)



## 7 大学からマチへ，ムラへ



### すももサイダープロジェクト始動

枚方市では、紀元前 250 年、惣喜池の周辺で農耕が始まり、お米、綿や菜種、小麦（素麺）、野菜、果実、花卉、鶏卵、牛乳、牛肉、河内ブナなど、多種多様な農畜水産物が生産されてきました。現在も、枚方市には 1224 戸（販売農家 460 戸、自給的農家 764 戸）の農家が様々な食べ物を育てておられます（2015 年数値）。

枚方市のすもも栽培は、明治後期に日本すももの在来種を杉地区で植えたのが始まりです。大正時代には「杉の巴旦杏（はたんきょう）」として、大阪や京都で名を馳せました。戦時中、すもも畑は一旦さつまいも畑になりましたが、戦後、再びすももが植えられ、1964 年には 14 戸の農家で「杉すもも生産組合」が結成され復活したのです。枚方のすももは、今もなお、夏の訪れを告げてくれる枚方の特産品のひとつですが、現在は都市化や農家の高齢化などの影響から栽培農家、面積とも大きく減少しています。



さて、このたび摂南大学農学部&枚方市&すもも農家さんとの共同企画でオリジナルブランドの「すももサイダー」をつくることになりました。まだまだ手探り状態であり、すもも畑の管理や収穫、加工のお手伝い、ラベルデザイン、販売サポートなど、摂南大学農学部の教員や学生がどのような関わりができるかはこれから検討していきます。産・学・官の叡智を結集し、枚方の農業や地域を盛り上げる「すももサイダープロジェクト」。

農業の有する公益的機能を鑑み、枚方の農業をこれからも守っていくために、具体的に動き始めた暁には、皆様のご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。



（中塚華奈）



### チャイプロジェクト進行中

食ビ通信 No.2 で報告した「農学セミナー」の記事の続報です。学科横断型で地域社会との協働による「摂南大チャイ・プロジェクト」が近々始動しそうな気配ですと書きましたが、実現しそうです。「大風呂敷は広げてみるものだ」とつくづく思います。

学内から食農ビジネス学科・食品栄養学科・農業生産学科の教員、京都南部の道の駅と茶園、大阪のスパイス会社、京都の NPO が集い、地元の茶葉で作った紅茶と東アフリカの小農民が栽培したスパイス（カルダモンやバニラ）を材料に、美味しいチャイ（香辛料入りのミルクティー）のレシピづくりが進んでいます。うまくいけば、来年の今頃までに商品化し、みなさんのお手元に届けられそうです。

一杯のカップのなかに関西の茶葉や牛乳や水、東アフリカのスパイス、それぞれの土地の風土、そして作り手の想い。もしかすると、紅茶やスパイスの食文化に新しい広がりをもたらすかも知れません。これって価値創造と文化の発信です。そのうち学生諸君にも参加してもらいます。さらに大風呂敷を広げましたが、有言実行します。乞う、ご期待。



（田中樹）

## 8 おすすめの一冊

川上徹也著

『仕事で大切なことはすべて  
尼崎の小さな本屋で学んだ』  
ポプラ社



この本は、主人公である大森里香がなんとなく出版取次の大手企業「大販」に入社したことから始まる。

そして、彼女が仕事のトラブルで行き詰ったことをきっかけにして、小な書店の小林さんに出会うこととなる。私は、特に小さい本

屋を続けるために傘を売り歩いたエピソードが好きだ。小林さんは、本屋のための副業に過ぎない傘売りも本と同じように愛情をもって、販売し続けた。ただ仕事をこなすのではなく、好きになる努力を惜しまない小林さんの姿勢に感動した。実際にこの本に綴られている小林さんのエピソードは、どれも著者が取材した内容であり、ノンフィクションであるのも魅力である。ぜひ何かに立ち止まったら、読んでほしい作品である。

(2年, 吉村茉莉)



私も若手の頃、勤務していた省庁で、当時はタブーとされていた米の輸入自由化を検討するミッションに携わったことがあります。数ヶ月間深夜になると集まり、安い外国産米の輸入が国内の米生産に与える影響をいかにして緩和するかについて、議論してシナリオを作り上げました。OZのメンバーと同じように、与野党だけでなく、省内の激しい抵抗やメディアからの取材攻勢を経験しました。そのシナリオ自体は残念ながら実現しませんでした。数年後形を変えて実現したときの感慨はひとしおでした。本書を通じて、公務員の仕事のやり甲斐という面も感じ取ってもらえればと思います。



(吉井邦恒)

## 9 編集後記

食ビ通信は食農ビジネス学科の学生と教員のコミュニティづくりを目的にしたニュースレターで、今回で3号になります。毎年春と秋に刊行することになっています。現在は教員が主導しますが、学生諸君にも積極的に関わってほしいと考えているので、「我こそは」と思う人は名乗りでてください。

良いコミュニティをつくることは人間社会の最重要目標です。これは与えられるものではなく、つくるものであり、放っておくとだめになっていく代物です。学生同士、あるいは学生と教員の良いコミュニティをつくってほしいと願いますし、教員もそのための努力を惜しみません。

大学には試験や卒論等の労苦があり、「いつも快適」というわけにはいきませんが、それぞれにとって重要な意味をもつ場所にしたいものです。(編集長:柳村俊介)



真山仁著

『オペレーションZ』新潮文庫



本書は、国家破綻(デフォルト)―国債(国の借金)の返済ができなくなる状態―を回避するため、首相の密命によって結成された官僚チームOZ(『オズの魔法使い』にちなんで“オズ”)が国の財政支出を半減させるという「不可能で不

可欠な」ミッションに挑む姿を描いたフィクションです。